

2025 全道合研 第8分科会「音楽教育」報告

11月8日（土）13：00～16：00 オンライン開催 参加者6名

基調提案と2本のレポートを中心に、参加者の問題意識や実践を交流しながら音楽教育について討論した。参加者は、小学校特別支援学級担任、小学校2年生担任、特別支援学校小学部、特別支援学校高等部、中学校元教員（合唱団指揮者）小学校元教員という構成。

*基調提案 「基調に関連して最近考えていること」

共同研究者 石窪 満

合唱曲「生命の木、空へ（林光 詩・曲）」の「なぜ？」「敗戦の子ども」から核廃絶・平和構築への音楽の役割について考察している。

「音楽は、〈核〉にたいして物理的には無力であるが、人びとの祈りとねがいを代弁し、行動へと誘うくらいのちからは、あるのだ。」という林光の言葉を引いて、「音楽が人々の心に働きかけて平和を築く行動へ導く」とことと「子どもも教師も喜びいっぱいの音楽の授業をつくること」は、どちらも簡単なことではないけれど、追求し続けなければならない、と結んでいる。

「混声合唱団 音の虹」による録音 ～「生命の木、空へ」より

♪「なぜ」

林光 詩・曲

♪「敗戦の子ども」

林光 詩・曲

*レポートの概要

(1) 「全国の仲間から学ぶ～教材選び、伝えるしごと」

釧路市立鳥取小学校 山口政世

8月に参加した「教育のつどい」や、自身が参加している研究団体での学びと日々の実践とのつながりを整理し、自らの実践を振り返るレポート。

教室に季節を運び、自然との関わりや音楽ではたらきかけ、子ども同士の関わり合いを通して、子どもの内面を豊かに耕そうとしている。目の前の子どもに今、必要とされる音楽（教材）を選び、教師の体を通してそれを伝えることを大切にしている。研究会への参加が、全国の優れた実践・子どもたちの生命力にあふれた歌声から刺激を受け、新たな教材との出会いの場にもなっている。

♪「つくしがでたよ」

作詞・作曲者 不詳

♪「たんぽぽひらいた」

こばやしけいこ 詩 丸山亜季 曲

♪「春がきたよ」

木村次郎 詩 丸山亜季 曲

♪「ラッパずいせん」

A.A.ミルン 詩 小田島雄志・若子 訳 工藤吉郎 曲

♪「うしどし」

池田小学校のこどもたち 詩 林光 曲

♪「ポランの広場

宮沢賢治 詩 林光 曲

♪「風たちの夏の歌」

中村欽一 詩 丸山亜季 曲

♪「博士のなげきの歌」

林 光 詩・曲

(2) 「みかぐら」の取り組み～表現の幅を広げるために～

(七飯養護学校) 山本 秋恵

養護学校高等部3年生の音楽の授業で身体表現として「みかぐら」に取り組んだレポート。

目的は「文化的背景や精神性を伴う伝統的な身体表現に触れることで、生徒一人ひとりの新たな自己を発見し、表現の幅を広げること」としている。

取り組みにあたっては、扇子や鈴が象徴しているものへの理解を深め、曲のベースになっている「岩戸隠れの神話」を5つの場面に分けて構造化している。さらに、どの場面を踊るかを生徒自身に選択させている。

これらの工夫により、生徒たちは難しさを感じながらも意欲的に取り組み、それぞれの個性を發揮して新たな自己を発見し、表現することができた。

*写真「授業で練習に取り組む生徒たち」

*討論の概要

基調提案とレポート報告を受け、参加者の学校や実践の話を交えて討論を行った。

戦争や平和を学ぶことは子どもたちに求められているという意見が出された。

また、他教科のみならず音楽の授業でもICTの活用が半ば強制的に進められるようになってきたが、子どもの育ちに必要なのは、やはりアナログであることが確認された。子どもの日々の生活、友達とのかかわり、自然や季節を感じること、そして生身の人間である教師からのはたらきかけ。教師自身が魅力を感じ、目の前の子どもたちへ伝えるべき価値を見出しているものを教材として選んでいることは、2本のレポートに共通していることである。

(文責 山口政世)